2024 年 6 月 28 日

学校法人三幸学園
大阪こども専門学校
校長　山本　稔　殿

学校関係者評価委員会
委員長　西寺　志裕子

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
①　木村　優人　（社会福祉法人 天王福祉会 てんのう中津保育園 副園長）
②　坂本　真依　（第 12 期卒業生）
③　西寺　志裕子　（飛鳥未来高等学校　大阪キャンパス　キャンパス長）

2　学校関係者評価委員会の開催状況
2024 年 6 月 19 日（会場　大阪こども専門学校　503 教室）

3　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度　学校法人　三幸学園　大阪こども専門学校
自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者　：　副校長　片渕　卓也
学校関係者評価報告責任者　：　学校関係者評価委員会委員長　西寺　志裕子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①　前年度重点施策振り返り

（1）業界や地域社会に対するコンプライアンス体制の整備について

常勤教職員に対し、全員必須で研修を行い、参加後レポートを提出させるなどの理解浸透を図った。また、非常勤講師に対する注意喚起やガイドブックの統一配布を実施することができた。

（2）全教職員に対する情報共有や研修の実施について

全教職員に対し、外部講師による社会情勢を踏まえた講話を実施したり、社会経済に関する情報を共有したりする機会を設けることができた。

（3）若手担任の教育力向上について

新任含め若手の担任に対し、定期的な研修会や相談会を設け、社歴上位者からのレクチャーによるインプットをしたり、同じ境遇の教員同士で相談し合えるようなアウトプットをしたりできる仕組みを構築できた。

（4）学生支援について

多様化する生徒に対する保証人らの要望に応えるべく、合理的配慮の希望票を作成し、希望する家庭の声を拾いやすくするとともに学校としての支援がとれるような仕組みを構築することができた。

②　学校関係者評価委員会コメント

・合理的配慮の希望票について、保護者より入学前に提出があれば事前に家庭と連携が取れるためよかったと思うが、卒業後に手帳を持っていても保育現場でどのような業務内容に従事できるのかまだまだ探っている段階。（許斐さん）

・保育補助以外で、現在厨房の調理補助で働いてもらっているが、保護者・子どもたちや職員も含めて理解をしており、子どもたちにとってもいい経験になるため、今後は保育補助も受け入れていければと思う。合理的配慮希望を出した生徒の就学支援や周りへの理解をどのように求めるかも大切である。（木村委員）

・大学は学内実習で単位修得させる体制を取るところもあるが、専門学校ではそれを学外で取らせることに徹

しているため、現場との相互理解や協働がより必要である。クラスメイトへの周知は本人や保証人の了承（周知希望）の有無を尊重して柔軟に対応できるようにしている。（片渕さん）

・若手職員が増えてきていることの対策として、生徒対応での具体例を実際にロールプレイングすることで実際のクラス運営に役立つような研修を行っているが、生徒側の意見として、若手職員はどう感じるのか。（清瀬さん）

・年齢が近いため、話しやすかったり相談しやすかったりした記憶がある。先生とは信頼感より話やすさの方が大事だった。（坂本委員）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・一部生徒への学校が掲げる理念・育成人材像の浸透が課題。教職員間の認識統一はもちろん、生徒達への周知(何のためにこの学校に通っているのか・将来は保育業界においてどんな人材となっていくのか)の意識づけを継続して実施していく必要がある。

・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想について、全教職員に周知はできたが、理解浸透には課題が残る。

② 今後の改善方策

・学年間の連携はもちろん、授業担当を巻き込んだ一気通貫した伝達が必要。全体会議等の場で学校側が伝えたいことを共有し、学年毎により深堀りして具体的にどう伝えるか認識統一をする。

・授業開始後も継続してコミュニケーションを図っていく。より個別にアプローチが必要な生徒については面談等をうまく活用し、担任はもちろん時には学年主任や現場経験のある教員も入る等の工夫をしていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・目的や教育理念は学室へ掲示しているが、全生徒へ浸透はなかなかしていなかった。(坂本委員)

・浸透させたい言葉は、堅苦しい言葉より、分かりやすいやさしい日本語の方が入る感覚がある。保育園の職員にも同じことが言えるので参考にしてほしい。(木村委員)

・入学者の多くは、どちらかというと将来の志望が定まりきっていない生徒も多いと思うので、より詳細な(実習があることや、勉強の内容など)情報を丁寧に説明しておくことが大切にしてほしい。(西寺委員)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・教務、財務等の意思決定システムこそ整備されているものの、それを全メンバーに浸透させ実働させる部分で課題がある。

・情報システム化を促進しようとする意識は上がっており、また活用率も上昇している。しかし、システムの理解度に偏りがあり、また全体の活用度も更に高い水準まで上げていく必要がある。

② 今後の改善方策

・役職者間で情報共有し、適宜責任者よりメンバーへ配置意図等伝えてもらっている状態。最初の時点で上位方針を正しく浸透させるよう、より役職者間でメンバーに合わせた伝え方を検討していく。

・学園から発信されているマニュアルの活用、および部門の状況に合わせてブラッシュアップし誰でも活用できるよう理解を深めていく。全体、場合によっては個別のレクチャー会も検討。

・姉妹校の活用例などを積極的に取り入れ、活用度を高めていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・どこの学校も課題が似ている。アナログな人的ミスは、基本に戻りマニュアルを確認することで防ぐことができるため、学園が発信しているマニュアルを適切に活用していき、プラスで学校独自のものを使用していくといいと思う。（西寺委員）

・情報システム化が促進されることにより、ベテラン層は対応が難しいため、若手職員がインスタの投稿方法などベテラン層に教えている。（木村委員）

・未来デザインプログラムの授業では、1年を通して7つの習慣を学んでいく。手書かせる日誌にて生徒の変化をキャッチするようにしているのだが、今年度からアプリ入力になった。それによりペーパーレスおよび複数教員での読みまわしの業務が軽減し、かつアプリが心配な生徒をアラートで知らせてくれる仕組みになっている。（許斐さん）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	4
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

･学校としての資質向上のための研修については全体会議等での機会を設けている部分もあるが、教職員によって実施回数に差があったり、自クラスや自授業の生徒へのアプローチを検討･ロールプレイングするところまでは至っていなかったりする。

･教務力向上や職員としてのマインドセットおよび事務研修などは充実しつつある一方、関連分野に特化した先端的な研修はその量と質に課題を残している。

② 今後の改善方策

･関連分野に特化した研修も含めて充実を図るだけでなく、その後どのように実践していくかまで職員間･学年間で検討･実践できるよう仕組み化する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・実習巡回の際、生徒の普段の状況を理解している人に来てもらえると精度の高い巡回になっていると思う。（木村委員）

・普段の接点がなく、はじめて会う生徒がいたとしても、巡回前に巡回担当教員と生徒とが面談をして実習に臨み、巡回をいると思うため、引き続き続けてもらいたい。（西寺委員）

・実習中、巡回で知っている先生が来てくれると、うれしくなり頑張ろうと思えた。また、授業で制作したものや手遊びについては、現場でも活用しているため、学生時にもっと作っていたらよかったと思う。（坂本委員）

・採用段階で保育現場での経験がない人については、現場へ見学や体験しに行くことで生徒の実習時の緊張や大変さも味わうことができるのではないかと思う。（片渕さん）

・生徒・教員問わず、受け入れるため見学に来てもらいたい。（木村委員）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生･在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・資格取得率の向上を図る取組みは行っているが、成果が出し切れていない。
・目標喪失、学校生活不適応を理由に退学者が多数出ており、特に1年次の退学者が多い。
・卒業生の実態把握には努めているが、学校の教育活動の改善のため更なる活用ができる余地がある。

② 今後の改善方策

・履修科目の単位修得により資格取得の可不可が決定するため、単位修得率の向上に努めること。
併せて、実習や現場実践の機会を普段の教育活動に繋げ、卒業後のキャリア形成の機会を継続的に作る。
・特に入学直後の生徒に対してのアプローチを担任陣と授業担当とで目合わせした状態で迎え、一つ一つ小さな成功体験を積めるようなフォローを学校として実践していく。また副担任制を活用し、より多くの教員でサポートする体制を取る。
・卒業生から得た情報を、在校生が受講する科目の中でリリースするフローを確立させる。そのために継続した通学支援や学習支援を行っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・人間関係がうまくいかず、退学する生徒が多いため何とかしたい。人間関係でもトラブル系と生徒の特性の 2 つに分かれる。(許斐さん)
・トラブル系に関してはクラス間で共有がないため、周りが気付いてあげられたらいいと思う。(坂本委員)。
・特性については、通信制からの進学の場合、起立性障害などで通学が困難という場合もあるため、配慮が必要になると思う。(西寺委員)
・園での退職理由も人間関係が多い。実習に来る生徒には、実習が楽しいというイメージを持たせたいため、褒めて伸ばさないといけないように思う。子どもに会える、現場が楽しいなど思ってもらえるよう、こちらも努力が必要。1年生のうちから園見学に積極的に来てもらいたい。(木村委員)
・1年生は4月からボランティアやアルバイトなどで現場経験を積めるよう仕組み化しており、気になる園を実際に見てもらい職業感醸成を図ることで、退学傾向も減らしていきたい。(許斐さん)

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

･卒業生の支援体制は再就職の斡旋等実績こそあるが、元担任等の関係性があって実現している状態。

･退学者への支援体制については、現状なかなか難しい。

･高校との連携強化。

･社会経済や業界ニーズに沿った人財育成を行うための知識の醸成。

② 今後の改善方策

･卒業生 LINE 等を活用し、定期的に支援体制の存在を発信するとともに学校としての仕組みづくりをする。

･退学理由としてあげられる人間関係や学校生活不適応が悩みとなる前に、様々な角度から支援する。

･(4)の取り組みに加え、高専接続をより強化するため情報共有を行い、生徒支援に活用する。

･(3)の取り組みによって実施。

③ 特記事項

なし

③ 学校関係者評価委員会コメント

･通信制高校出身の生徒が増えてきているため、1年生の時に通信制の生徒が通いやすいクラスづくりを段階的にどうやって行っていったらいいのか。(片渕さん)

･通信制高校は通学方法が多様であるため、入学前に同じ目標に向かって学ぶという方法を頭でわかっていても、実際には体が追いつかない生徒が多いため、専門学校も変わっていかないと生き残れないように思う。打開策を見出してほしい。(西寺委員)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・海外研修が実施出来ていない。(コロナ禍も含む)

・教育上必要な設備は整備されているが、更なる現状ニーズ(ひとり空間等)に応える整備に課題を感じている。

② 今後の改善方策

・海外研修の実施目的や魅力を伝え、希望者の最大化に努める。

・限られたスペースではあるが活用が出来るよう、求めている生徒に対して適切に周知を行う。

③ 特記事項

こども分野において案内・周知されている海外研修説明会資料を共有した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・海外研修は高額になるため、昨年度は人数が集まらず実施ができなかった。今年度も希望者が少ない状況である。(片渕さん)

・入学前から参加したいとは思っていたが、金額を見て断念した。生徒にやさしい金額設定であれば行っていたと思う。(坂本委員)

・海外研修先を変更する、もしくは国内のインターナショナルスクールや独自の園を見に行くツアーにすると、多くの園を見学でき面白いと思う。(西寺委員)

・業界では、国内で特異的、先進的な保育をしている園を視察にいく取り組みがあるので模倣するのはどうか。(木村委員)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・同分野の短期大学や専門学校との明確な差別化。

・入学前後のギャップの解消。

② 今後の改善方策

・学校のコア・コンピタンスを踏まえた打ち出し・SNS や DM での訴求。

・”保育の専門学校”であることがシンプルに伝わるよう、普段の授業や卒業生の活躍を打ち出す。

・学校生活のより見える化を目指し、具体的な学習形態や教育理念・目指す人財像を伝える広報活動を行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・卒業生が大阪こどもの先生は親身に話を聞いてくれるため何かあれば相談に行くと話していたため、生徒と密に関わっているというのは学校の強みだと思う。（木村委員）

・入学前のオープンキャンパスにて、保護者説明会を対面で実施しているが、学年が上がるにつれて保護者との関わりが薄いように感じる。入学前だけではなく、全学年対象に保護者説明会や就職活動の保護者説明会など、保護者との交流を増やすことで、家族との連携がとりやすいのではないかと感じる。（西寺委員）

・入学前の説明会しか行っていなかったため、2，3年の保護者会、就職活動への保護者説明会などの実施を検討していく。（許斐さん）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画（2023 年度～2027 年度）の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・地域貢献に直接的につながる取り組みまで至っている活動が少ない。

・公開講座の周知が弱い。

② 今後の改善方策

・まずは関わる生徒を選抜する等して、地域活動をするコミュニティの創出を検討し広めていく。

・地域だけでなく卒業生なども含め、広く発信していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・災害が多いため、地域の人と一緒に訓練ができたらと思う。また、お祭りも一緒にできたらいい。（木村委員）

・在学中にもっと現場の言葉を聞きたかった。自ら話を聞きに行くことができる人もいれば、それが難しい生徒もいるため、説明会などあればいいと思う。（坂本委員）

・高校も地域支援ができていないため、姉妹校の専門学校の力を借り、分野や進学そして就職に繋がればいいと思う。（西寺委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・先生の温かみ、大事なところ、いいところがたくさんあるため今後も大事にしてもらいたい。また、卒業生からこういう声があったというのがあれば聞かせてもらい、今後も学生のことも含め一緒に連携を取りながら行いたい。困ったことがあれば協力させてもらいたいため、卒業後も連携が必要だと思う。（木村委員）

・高校分野から入学する生徒の斡旋ができるようにしたい。進学後の専門学校、その先の取引先をみた人材育成を高校もしていく必要があると思う。そのためには高校と学校の連携が必要である。（西寺委員）

・園の先生に相談できないことがあったとき、専門学校の先生に相談できたらと思っていた。また、学生時代に地域のボランティアの経験をしたり、資格を取得したりしていたため、今では子ども達にバルーンアートを作ったり、外へ行った際には、虫や葉っぱについて教えることができたりしてとても役に立っている。在学中に是非ボランティアへも積極的に参加し、色々な資格を取得してもらいたい。（坂本委員）

・実習の際、生徒は緊張し、行かなくては、乗り越えなくてはという気持ちを持っており、こちらもそんな生徒に頑張っておいでねという危機感・緊張感のある姿勢であったが、今回、木村委員が実習は楽しいと話しており、実習へ行きたい、楽しみというように生徒の気持ちを持っていくのが学校だと思った。ボランティアや実習など、楽しみと持っていけるよう検討したい。（清瀬さん）

・養成校としての使命感が見え、改めて身が引き締まる思いがある。時代とともに情報を得ながら連携を取り、変化を遂げていきたい。（片渕さん）

・今後も園や高校とは連携を取り、卒業生からはネットワークを通して意見をもらいたい。（許斐さん）